×××・クラッシャー

今井かなと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
×××・クラッシャー

【Ｎコード】
Ｎ６２３７Ｖ

【作者名】
今井かなと

【あらすじ】
なぜか弟と一緒に異世界召喚。
家族を守るために勇者として名乗りをあげ、
何とか魔王を倒してみたんですけど…。
なかなかすんなりとは還してもらえない？
コメディ目指します。

プロローグ

ゆらゆらと揺れる焚火をじっと見つめていると、今までのことを思い出す。
よくわからないままこの世界に喚ばれて、
思わず『勇者』に立候補し、
仲間の力を借りて何とか倒した…とか文字にしてみるけど、もうとんでもない経験だらけだった。
ゲームの世界とかちょっとあこがれたこともなかったわけじゃないけど
実体験してみるととんでもない。ごめんこうむりたいレベル。

だけど、もうすぐそれも終わる。
勇者として旅立つ前に、約束してもらっていたことがある。
『魔王を倒したら、還してもらう』
そのことを王様に約束してもらえたから、私は今まで頑張ってこれたのだ。

「もうすぐ帰れるんだ…」

仲間に聞こえないくらいの声で私は呟いた。

帰り道1

少しだけ心地よい風が吹いて、焚火の炎を揺らしていく。
体育座りでそれをじっと見つめる。あたりは闇に包まれている。
ああ、炎って暖かいものだったんだなあ、なんて改めて思う。
たぶんずっと知らないままだったのかもしれない、自然の偉大さとか…

「考え事ですか？」
とりとめもない考えは、柔らかな女性の声で遮られた。
「勇者様は考え事が多いんですね」
私の隣に同じようにして座る女性…シェルリーナは笑いながら微笑んだ。
「んー、よくまあ頑張ってこれたなあ、なんて思って」
「それは勇者様のお力です、努力のたまものです」
「…べた褒めしないで、恥ずかしいから」
シェルリーナの言葉に思わずうつむくと
「そんな控え目なところも素晴らしいんです！」と
横からぎゅっと抱きしめられた。
「恥ずかしいです」
「女の子同士なんですから」
「私、女の子って歳…」
「女の子なんですから間違ってません！」
思わず笑いだす。…こういうのガールズトークっぽいなあ、私の年齢等々はおいとくとして。

抱きしめた姿勢のままシェルリーナが話し始めた。
「やっぱり、還ってしまうのですか？」
「うん、そのつもり」

それは決めていた事、王様の前でお願いした事。
「……寂しくなります」
シェルリーナの声のトーンが落ちたことに気がつかないふりをして
私は話を続ける。
「私は弟と元の世界に還るよ」

帰り道2

「シェルリーナも確かその場所にいたから聞いてたよね」
「はい、勇者様召喚の儀式には有力な者は呼ばれていましたから」

今更ながら、まざまざと思い出す。
確かあの日は、いつも忙しい弟が珍しく家にいて
『よーし、お姉ちゃんが弟のためにおいしいご飯を！』なんて張り切って
テーブルで向かい合って他愛もないことを話しながら食事をしようとした時に
一瞬、暗くなって。

いつの間にか2人一緒に、見たこともない場所にいたんだっけか。

「私たちもびっくりしたんですよ、勇者様召喚で2人現れたんですから」
「そこんとこはアバウトだったんだね、ほんとに」
「大体の位置しかわかりませんでしたから…それに」
「肝心の勇者がどっちかはっきりしないとか…」

そう、完全な食事ゆったりスタイルで食卓と一緒に呼ばれた私と弟に
『どちらが勇者様ですか？』と神官が問いかけて、
どちらも答えないものだから周囲がざわつき始めて。
あんまりに突然の事だったから、私もどうしていいかわからないまま
まだったんだけど
急に弟が胸を押さえて前かがみに屈んでしまって。

何よりもこの状況をどうにかしないといけない、と思って
「私が勇者です！」と思わず。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6237v/

×××・クラッシャー

2011年8月15日10時43分発行